

演劇空間スペースベン

DanceWAGに 魅了された日

〈文・劇団INTELVISTA 田面木 静子〉

●公演データ
Dance WAG 発表会 FLASH vol.3
2006.11.19(SUN) ①13:00 ②17:00
六戸町文化ホール（メイプルホール）入場無料



「Long Way To Happy」

11

月19日、六戸町のメイプルホールへ、Dance WAGの公演を見に行った。

先日の県民参加型演劇「戯曲寺山修司論」で、主宰の沼尾さん率いるWAGトップチームと一緒させていただいたのだが、その時なんと彼女らは、劇中の40分間休まず踊り続け、その体力と表現力でそこにいた全ての人をWAGの虜にしてしまったのだ。例外なく大ファンになった私たちは、本当にこの日を待ちわびていた。にもかかわらず、開演に少し遅れて到着してしまった。係員に案内され、そっとドアを開ける。するとその瞬間、大音量の音楽と観客の熱気が溢れてきた。慌てて会場に入ると客席は超満員。やむなく、私とダンナは一番後ろでの立ち見となった。

この公演は、WAGのダンス教室生徒さん全員の日頃の成果を披露する場であるようで、小さな子供たちや中高生、社会人、お母さん方まで踊っていた。

最初は「かわいいなあ」といった感じだったが、少し大きな子供たちが踊り始めたたん、私は面食らった。かっこいいのである。セクシーなのである。彼らのダンスは伸びやかで、軽やかで、弾ける若さに嫉妬さえおぼえるくらいだった。アダルトチームのダンスが始まると、さらに私は舞台に釘付けになった。鍛え抜かれた肉体が、力強く、やわらかく、その動きひとつひとつが美しい。うっとりとしてため息がもれた。



「なごり雪」

楽しそうなダンサーたちにつられて、見ているこちらの方も体が動く。ふと気づくと、私だけではない、周りにいる観客のほとんどが、リズムにのって体を揺すっていた。会場全体がWAGを楽しんでいた。あのひと時だけ、自分もWAGになったような気分だった。

この舞台に立っている人たちは、ダンスを通して自らを見つめ、自分の体と対話しているのだと思った。そうやって年月を重ね、あのみ美しくしなやかな肉体が出来上がっている。人を魅了するダンスを踊ることができるのだらう。

芝居でもそうだ。自分の立ち振る舞いや話し方など、そういったことを客観的に捉え、自分を見つめ続けることで役者としての深みが増してくる。



「ENDING」

1 月の Friday Amusement Negative Shop

■1月5日(FANS 674)

勝手に新年会
構成：FANS

■1月12日(FANS 675)

ダベリ場 crossingcafe file.45
「自称クリエイターの悩み相談室 予算と納期」
案内人：安達良春

■1月19日(FANS 676)

ダベリ場 crossingcafe file.46
「今年もよろしく」案内人：田中勉

■1月26日(FANS 677)

ダベリ場 crossingcafe file.47
「自称クリエイターの悩み相談室 営業と制作現場」
案内人：安達良春

※特別番組以外全て午後7時30分～、料金／一般500円 高校生以下100円
※料金改定しました！ 高校生以下は、特別番組以外100円でご覧になれます。
チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。

■演劇空間 スペースベン
八戸市柏崎1-11-8
☎ 0178-43-9876
FAX 050-3588-8350
tsutomu_tanaka ☎070-5095-2028
HP <http://spaceben.com/>
Eメール owner@spaceben.com